

Face to Face



TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター

No.21 2010年4月号

カンボジア 救急隊活動中！！

救急システム整備事業の一貫で訓練を受けた救急隊。いまでは立派に育った救急隊員をご紹介します。

☞p.2

カンボジア/ザンビア 新職員着任

3月よりカンボジアとザンビアでTICOの活動を支える新たなスタッフが着任しました。

☞p.3&6

ザンビア ナショナルスタッフ 紹介

ザンビア事務所を支える、現地人スタッフをご紹介します。

☞p.4

ザンビア 小規模農村開発 ローン

事業を開始したグループ、終了したグループの様子をお届けします。

☞p.5

徳島 さくら農園から

かつてTICOザンビアの活動等で国際協力に携わっていた栄養士。いま徳島で行っている彼女なりの国際協力とは？

☞p.7

地球温暖化、 待ったなし！

～脱化石燃料の道へ～

TICO 代表 吉田 修

汗ばむ陽気の2月を初めて体験しました。温室効果ガスの削減を早急に実施しなければなりません。石油を使わない社会を作らなければならないのです。

石油に依存する社会と、脱石油社会を比較してみましょう。さて、どちらが得でしょうか？

1) 石油に依存する社会

- * 2008年、日本は13兆円の石油を輸入している。
- * 今後、石油は枯渇し価格は上昇する。
- * 石油資源を確保するために米国は借金をしてまで戦争をしている。
- * 日本は国民の銀行預金をかき集め米国国債を買わされている。
- * 日本は石油を確保するために米国の戦争に加担している。
- * だから沖縄に基地が必要となる。
- * 温暖化が進行し、海面上昇・自然災害の増大・農業生産の落ち込みが予想される。

2) 脱石油社会

- * 13兆円を新エネルギー産業に投資できる。（1億円の事業を13万件できる）
- * 地域分散型の産業構造になり、地域が活性化する。
- * 太陽光、風力、水力、潮力、波力、バイオマスなどを利用するための技術革新が生まれる。
- * スマートグリッド（小規模な発電と蓄電をコンピューター制御でつなぐ新しい送電システム）の技術革新と産業化が期待できる。
- * それらの技術を世界に売り込める。
- * 森林が適正に管理され、洪水・土石流が減る。

* エネルギー自給率が向上し、資源争奪戦争の必要がなくなる。

どちらが得かは明らかです。世界をリードするためにも早く一気にやるべきです。ついでに、原子力に頼らないレベルまで進めるべきだと思います。

最近さくら診療所が導入したペレットストーブを紹介합니다。北欧では広く普及した非常に便利で快適なストーブです。多くの人がこれを使うようになれば、ペレット製造業が興り日本の荒れ果てた森林に資金が流れて山がよみがえります。温暖化対策として一石二鳥です。



よした・おさむ：自称兼業農家（外科医）

徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療支援活動を実施。現在吉野川市山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。写真はTICO合宿で学生に向けワークショップを行っている様子。



* ペレットストーブ：木質ペレットを燃料とするストーブ。ペレットの燃焼でCO2は発生するが、炭素循環内の総量としては増加しない点が化石燃料とは異なる。

* 木質ペレット：おが屑など製材副産物を圧縮成型した小粒の固形燃料。間伐材の利用促進が期待される。

カンボジア／ポチェントン救急隊、活動中！！

TICOはセカンドハンドと共同で、プノンペン市西部地区のポチェントン病院救急隊を支援しています。救急隊は2008年度からTICOが中心に訓練を行い、今では立派な救急隊員たちが救急要請のたびに出勤しています。

ポチェントン病院で救急車に乗っていくメンバーはだいたいいつも3名です。1人はドライバー、1人は救急隊員、そしてもう1人がポチェントン病院の医療者です。日本では救急隊は、医師や看護師とは別に専門資格として存在していますが、カンボジアでは救急隊の専門資格がなく、救急車に乗っているのは医者や看護師で、普段の診療業務と兼務している場合がほとんどです。

今回は、ドライバーも含めたポチェントン救急隊4名をご紹介します。彼らに救急隊になった理由を聞いてみました。（ふきだし部分）彼らはドライバー+隊員の2人組で交代しながら、2日に1回は24時間勤務をしています。もちろん土日も休みなしです。



保健医療専門家・古家聖子

コーン：運転手

やさしくて頼りになる親方的存在。表舞台に強く、みんなの前で訓練を披露するのが得意。ダンスも上手。私（古家）をお嬢様の様に大事に扱ってくれる。はじめのころクメール語が話せずだまっていたと、日本に帰りたいの？と心配してくれた。



ここカンボジアではプノンペン市内においても地方でも交通事故が多発しています。救急隊へは、交通事故現場における救急処置と国立病院へ搬送する際の救急車内での応急処置の方法を学ぶため志願しました。

パウ：運転手

小さくて無口だけど笑顔が素敵。救急車を早朝5時ぐらいからせっと洗い、備品チェックをしている。大工仕事が得意で何でも修理してくれる。私（古家）のビーチサンダルがちぎれたときもすぐに修理してくれた。今はなくなってしまったが、コールセンターの隣で家族ぐるみでカフェを営み、コールセンターの管理も家族でしてくれて



カンボジアでは、いつ私の家族が被害者になってもおかしくないくらい、交通事故が頻繁に起こり、多くの命が失われています。事故の被害者のみならず家族をも救うことにつながると考え、志願しました。

チェン：救急隊・看護師

シャイで人前は苦手。でもとっても優秀。手技もピカイチ、理解力もいいのでテストはいつも好成绩。最近結婚した。出勤のベルが鳴ると救急車にかけつけるのは誰より早い。昼間の救急隊の要。



私はできる限り交通事故の犠牲者を救いたいと願っています。犠牲になった方々に対しては本当に気の毒に思います。犠牲者の方々の痛みを和らげ、死亡率を減らしたいという理由から志願しました。

サモール：救急隊・看護師

とっても明るくいつもおちゃらけている3枚目。女性みたいにしなやかな動きが特徴。お酒が大好き。勉強は嫌い。でも救急車に乗ると豹変する。現場に向かうまで必要な準備をきばきと整え、患者の処置も適切、患者を降ろした後もてきばき掃除している。ほかの職員と仲良しでよく手をつないで歩いている。



救急隊へは、交通事故の被害にあわれた方々の命を救い死亡率を減らすという理由と、貧しい人を救う人道的観点から志願しました。

ミナ&ニタ：電話受付

コールセンター（119にかけると繋がる）は昼間は救急隊が電話を受けていますが、夜間は彼らも休む必要があり、コールセンターで電話を受ける人が必要となります。それを運転手のパウさんの娘さん姉妹がやってくれています。20歳前後と若いですが、救急隊を支える頼もしい二人です。そっくりですよ。



古家聖子のスタンバイ日記

私は事情が許すときには、救急隊と一緒に救急車に同乗させてもらうことがあります。カンボジアの医療ってどうなんですか？とよく聞かれますが、大きな病院のことがわからないので私にはお答えできません。でも少なくともカンボジアの医療者は、勉強熱心でよく働く人が多く、私はいつも頭が下がる思いがします。救急隊は救急要請のないときはスタンバイ、つまり待っているのが仕事です。24時間スタンバイを休むことはできません。救急要請はいつあるかわからないからです。2日に1回24時間待機。それでも出勤のベルがなると、ポチェントン救急隊は毎回救急車に走って飛び乗ります。一度、事故現場で髪の長い女の子に首の固定具がうまくまけなかったことがあったのですが、彼女を降ろした後、救急車の中で一生懸命固定具のまき方を練習していた救急隊の顔が忘れられません。救急隊に加えて、もう1人乗っているポチェントン病院の医療者たちも、昼間の病院の業務に加え救急隊の仕事しなければならず大変ですが、みな交代で夜間も救急隊とともにスタンバイしています。私みたいな小娘に、気をつかって慣れない英語で患者さんの状況を説明してくれるおじさんたち、ちょっと感動します。夜中だと患者さんを降ろした後帰るときは、みな眠くてテンションが高くなり、合唱しながら帰ったりすることも…日本ではありえないでしょうか。

新職員紹介 ～カンボジア事務所編～

下地美歩子

大学を卒業後、地元沖縄で高校の教員をしておりました。そのなかで、「開発教育」に出会い、授業に取り入れ実践していくなかで、実際に開発の現場で働いてみたいという思いが膨らみました。その後、(財)おきなわ女性財団やNGOの勤務を経て、この度、TICOプノンペン事務所に業務調整員として勤務することになりました。

～カンボジアの印象～

第一印象は、私の出身地沖縄に似ていると感じました。食事に関しては、タイ、ベトナム、中国と近隣の国々の影響を受けているため使用する食材、調味料が多様で飽きません。味付けも比較的マイルドなので日本人好みではないかと思えます。沖縄も琉球王国時代に中国、タイ、ベトナム、インドネシアなど周辺の国々と交易をしていた時代があり、食文化もこれらの国々から大きな影響を受けました。カンボジアの市場では、沖縄でもよく食べられている、ゴーヤー（苦瓜）、ウンチェーバー（空芯菜）、ナーペラー（へちま）等を目にします。また、軒先でブーゲンビリアが咲いている様子などを見かけると故郷を感じ、ほっとする瞬間でもあります。最近、沖縄とカンボジア



をつなぐニュースとして、沖縄の平和資料館とカンボジアのトゥールスレン博物館の間で技術提供が開始されました。地上戦で多くの犠牲者を出した沖縄では次世代へ平和の大切さを伝える平和教育を重視しています。ここカンボジアでもポル・ポト政権下で行われた虐殺と強制労働で多くの人が命を落としました。戦争がもたらした悲劇を後世に伝え、同じ過ちをくり返さないことが今世紀の課題ですが、今回の技術協力によりカンボジアの若者が自国の歴史により関心をもつきっかけとなり、更にはカンボジアから世界へ平和を発信する原動力になっていってほしいと願っています。



完成した啓蒙用フリップ
チャートとともに

～TICOとして～

カンボジアでは毎日たくさんの人が交通事故の犠牲になり、命を落としています。適切な処置を施し、一人でも多くの命を救うTICOの活動は今のカンボジアに必要な事業です。今年度は特に、地域住民に対する初歩的な救急対応の啓蒙活動を中心に活動を行う予定ですが、事業を推進していくに当り、受益者が置かれている状況の理解に努め、効果的な事業を推進していけるようサポートしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。

T I C O

支援のカタチ ～山口県立大学 国際協力サークルminorityの場合～

TICOの活動は、支援者の皆様からのさまざまなご協力によって支えられています。今回は、そのうちの一つをご紹介します。

毎年、ザンビアで国際医学生連盟-日本(IFMSA-Japan)の学生たちを受け入れているTICO。受け入れ前にはいつもTICO道場で合宿を行います。その合宿に来たことをきっかけに、一人の学生が、学園祭の売上の寄付先としてTICOを選ぶまで、の経緯を綴ってくれました。

minorityは、将来、国際保健・国際医療・国際看護に携わりたいという意思を持つ学生が、主体的に学びグローバルな視点を育み成長していこうという学生の集まりです。週に一回の勉強会やボランティア活動、講師を招いての講演会、スタディツアーなど幅広く活動し、国際協力の在り方や社会貢献について学んでいます。

そんな私たちはこの度、TICOにご寄付をさせて頂きました。きっかけになったのは学園祭にminorityで出店した模擬店です。その売上金の一部を国際貢献・社会貢献になるように寄付しようと試みました。寄付先としては様々な団体が挙がりましたが、検討の結果(私の強引な説得もありまして)、TICOの行っている国際協力活動を支援したいということでもとまりました。それに伴い、TICOについての勉強会を開き、ザンビア事業やカンボジア

事業、地域活動など国内外で行われている活動をminorityで学び共有しま

した。ただお金や物で一時的な支援をするのではなく、現地の人々が継続的に主体的に取り組めるような形で支援していくというTICOの活動は、大変興味深く学ぶものが多かったです。その反響は大きく、実際に“TICO道場”や吉田先生が開業しておられる“さくら診療所”を訪れてみたいという学生の声が多く聞かれました。

さらに私自身、TICOのご協力のもと今年の春にアフリカのザンビア共和国に行つてまいります。国際医学生連盟-日本(IFMSA-Japan)のプロジェクト(Africa Village Project)で、ザンビア共和国における健康増進・福祉の向上を目的に、現地の人々の自立やさらなる発展を支援させていただこうというプロジェクトです。夢にまで見たアフリカの大地…今は期待で胸がいっぱいです。不安は微塵もありません。ただプロジェクトメンバーの一員として、またTICOの全面的なご協力があるからこそプロジェクトが実現できているということに責任を感じています。自分が見聞きした一つひとつをただの経験で終わらせることのないよう、しっかりと学んできたいと思っています。



山口県立大学 国際協力サークルminority
国際医学生連盟-日本(IFMSA-Japan)
看護栄養学部看護学科3年 成 俊浩(ソン・ジュンホ)

カエンボ：警備員

穏やかで、ちょっと照れ屋な彼だが、仕事に対する姿勢はまっすぐ一本筋が通っている。「規則は守るもの」を体現し、仲間からの信頼も厚い。みんなでバーベキューをしていた晩も、「私は今勤務中ですから」と、勤務場所から決して離れることはない。手がすいた時間も、自分から仕事を見つけて、掃除や庭仕事までもくもくとおこなってくれる。逸材。



たまあに、誰にも聞かれていないと

思って、「チペゴ～。チペゴ、チペゴ、チペゴ」と事務所犬を撫でながら鼻歌を歌っていたりするのが微笑ましい。

スル：運転手

ちょっと恐面だが、気は優しく力持ち。人脈もあり、車の修理もお手の物。気がつく、事務所の車が解体されており、あちこちにパーツが転がっている。



何も言わなくても、一番無駄のないルートを選び、一番便利な場所で下してくれ、スムーズなオペレーションをしてくれる経験知の高いドライバーさん。

村に行けば、雑木林の中の道なき道を迷うことなくどんどん進める驚異の記憶力。雨季の泥道もなんでもないパワードライバー、頼りになる。

カサンガ：警備員

いつも少年のような笑顔がたまらない。家から事務所まで10Km近くを自転車で通勤しているにもかかわらず、笑顔が消えない人気者。しかし、まじめさと正直さは天下一品。日本人の目ではなかなか気付かないけれど事務所の運営全般に関わるような細かな点も、きっちり記録し、報告してくれるので大助かり。口癖は「オオ～イエ～」と「シュア、シュア」。彼のミニチュア携帯ストラップが思わずほしくなるようなかわいらしさ。(笑)



小柄で童顔のせいなのか、若く見られがちなのだが、実は2児の父と、大人。

ガバナー：運転手

誠実でさわやかな好青年。マジメで安全運転がモットー。いろんなところに穏やかで真摯な性格がにじみ出ているが、政治や運転マナーの悪いタクシーやバスの話になると、熱く語る側面も。

「あそこの交差点

だけは、なぜか侵入優先になっているから事故になるんだ！『クワッ』って車が入ってくるんですよ！！」と身振り手振りを交えて教えてくれる。ザンビアのわけのわからない交通法規よりも、その『クワッ』という表現の方が気になる。

**TICOザンビア事務所
現地スタッフ紹介**

前号のカンボジア事務所ナショナルスタッフに続き、ザンビア人スタッフを紹介したいと思います。ザンビア人は、基本的に恥ずかしがり屋の人が多く、写真撮ると「硬い表情」になりがちなのですが、本当はいつもにこにこしていて、とっても心温かい人たちなんです。怖がらないでくださいな！

吉田純（ザンビア事務所長）

チペゴ：警備犬？

TICOザンビア事務所の最古参。オヤジぶりが深刻化しつつも、誰よりも愛情表現たっぷりのザンビア犬。体全体で感情を表現し、心の中がはっきりわかるほど表情豊か。嬉しい時の顔は、本っ気で「笑って」いる。その笑顔と間抜けぶりはすべての人の心を溶かすマジックがある。

雨季は暑さと雷への恐怖のため、乾季は寒さのため、いずれにせよ車の下がお気に入りスポット。そのため、日に日に黒い斑点（車油）が増えてゆくカメレオン犬。名前の意味は「贈り物」。

**ムレンガ**：用務員

事務所の資機材の修繕からお掃除まで、なんでもやってくれる。細かいところにも気が付き、どんどん自分から事務所の設備などに関してより節約的で、便利になるように、提案をしてきてくれる。心配りのできる優しい彼、実は救急隊員の1人で、救命救急トレーニングも優秀な成績で卒業している。現在フランス語の勉強までしているという努力家の一面も。

**デン**：事務所ネコ

事務所猫。ネズミ対策にと引き取られたにもかかわらず、あまりの可愛さに甘やかされている。しかし、そろそろネズミ捕りへの期待がかかる御年頃。なぜか使用済み裏紙ボックスがお気に入りのお昼寝場所。

**カチェ**：事務所ネコ

村からもらわれてきた。当初の「小さいからいじめられたらどうしよう…」という心配もなんのその。誰よりも強くたくましいフードファイター。デンのお気に入りお昼寝スポットまで奪い取り、女王様待遇を謳歌中。撫でられるのがあまり好きではないらしく、へっぴり腰で、おしりを振りながら匍匐後退する。



ザンビア/チペンビ小規模農村開発ローン 新規案件 事業開始！

ザンビア事務所長 吉田純



2010年2月より、チペンビ小規模ローンプロジェクトから、新しく2案件が立ち上がりました。

これまで鶏、豚の飼育案件は支援してきましたが、今回は『山羊』です！（写真左：プテコ女性の会、右：マサカサカ）



山羊は病気に強く、飼育にも手がかからない上に、餌もその辺に生えている草を勝手に食べさせていけばよいという、とっても飼育に手がかからない画期的な家畜です。

同時期に同じ内容で申請をしてきたグループが2つあったため、1月27-29日の3日間、一緒にワークショップを実施することになりました。

我々が実施している小規模ローンのプロジェクトでは、活動を実際に開始する前に、活動に必要な基礎的な知識や技術を学んでもらおうと、ワークショップを実施しております。コーディネーターのンジョブさんは獣医学の専門家でもあり、プロジェクトの運営方法だけでなく、山羊の飼育方法についても詳細なトレーニングをしてくださいました。

ワークショップは、2グループのうちのマサカサカ村で開催することになり、もう一つのプテコ・グループのメンバーが確実に参加できるように、TICOがどことトラックで16名の参加者をピックアップに行きました。村にトラックが到着した時から、グループ全員が踊りながらトラックを出迎え、トラックの後ろに乗ってマサカサカに着くまでノンストップで大合唱。いやいや、ワークショップとはいえ、気分はピクニック。一大イベントです。（笑）

ザンビアでのワークショップは、まずお祈りから始まります。神様にワークショップの成功を祈り、それから授業中のルールをグループで決めます。私語は厳禁、発表者の意見を尊重する、時間厳守、などなど。

ンジョブさんの穏やかではあるけれど、自信に満ちたしっかりとした声でワークショップは進められてゆきます。ただ一方的に話をするのではなく、次から次へと質問をあげることで、参加者全員に「考えて」もらいます。

「山羊のオスのことを英語でなんと呼ぶか知っている人？メスは？」

「山羊の胃袋はいくつある？お乳の数はいくつ？」

「山羊から得られる利益とは、一体どんなものがあるか？」

一緒に聞いていた私にも質問は飛んできます。うかうかしていません。いやあ、本当に勉強になりました。皆さん、知ってました？山羊って、お乳1つに乳房が2つついているって。子山羊のオスはBilly、メスはNanny（もしくはDoe）って言うんですよ！！

授業はどんどん続きます。

山羊の飼育の手間は比較的簡単ですが、放し飼いにすればいいというものではないので（盗まれたり、迷子になってしまう可能性もあるため）、どのようにグループで育ててゆくか。病気にならないためにどうするか。また、病気を早く発見し対応できるようにするための、各病気に対する症状の説明等も詳しく行われました。

ダニなどの寄生虫対策として薬を塗る方法を教えるときは、マサカサカグループのリーダーがボランティアとして皆の前に引っ張り出され、「山羊役」になったりもしちゃいました。（写真下）

☞p.6へ続く





☞p.5続き

技術的な知識、プロジェクトのマネジメント方法、さらにはプロジェクトに対する心構えまで含めて、3日間のプログラムを1分も無駄にすることなく終了してくれました。

「信頼される仕事をする。チームとして一丸となって仕事をする。そうすれば絶対に報われる。働きすぎで死ぬことはない！」というジョブさんの言葉が忘れられません。日本人として、あえて「過労死」という単語にはふれませんでした。

覚えておられる方もいるかもしれませんが、ブテコグループは、昨年タックショップ（日用品店）の案件で非常に優秀な活動をして、ローンを遅れることなく完済してくれたグループです。今回の申請も、タックショップで得た利益を、さらに活用してゆきたいということから採用されました。

他方、マサカサカグループは新たに応募してくれたグループですが、申請書を提出した時点で、すでにかなり立派な山羊の飼育小屋を自分たちの力で建設しただけでなく、ローン返済の具体的なプランを早い段階で提示し、「やる気」を十分に見せつけてくれました。

新たな試みである山羊の飼育活動ですが、どちらも優秀なグループであり、大きな期待がかけられるものとなったと思います。さらに、今回の副産物として、同じ活動を違う2つのグループで同時期に実施したということから、いい意味で『ライバル意識』が芽生えてくれたらしく、すでに巡回を行うたびに、「あっちのグループはどうしてる?」「どこまで進んでる?」と興味深々。今後が非常に楽しみなブテコとマサカサカです!

おまけ：皆さん「マサカサカ」って10回早口でいえますか?

ローン返済終了!!

12月から雨がふりはじめ、日本の冬に当たる時期は、ザンビアでは農作業が忙しくなります。そんな中、養鶏の活動を熱心に続けていたグループ「カリヤングレ」が、2月24日、無事にローンを完済しました。

入れ違いでグループのリーダーに会えなかったのですが、ずーっとTICOのスタッフが来るのを待っていてくれたメンバー。「少し遅れてしまったけれど、ローンを完済しようと頑張りました。」と、誇ら

しげに残金320,000クワチャ（約6,000円）を、全額ぎっちり揃えて返してくださいました。ちなみにこの金額は、通常2〜3か月程かけて返済される金額です。なんと、グループのメンバーで手分けして、あちらこちらの農場などでパートの仕事をし現金を得、それらを出し合い、さらに鶏を5羽販売して返済金にあててくださいったとのこと。実は、ほんの数日前にリーダーの所に御不幸があり、今月の返済は難しいかな…と思っていた矢先で、もうその気持ちとやる気に感激しました。



皆様ご支援ありがとうございました。これでカリヤングレのローンは完済しましたが、これからも応援、よろしく願います。

新職員紹介 ～ザンビア事務所編～

この3月から調整員としてザンビアに赴任致しました。大学卒業以降20年間は新聞社で広告営業の仕事に従事しておりましたが、元々興味があった国際協力の分野にチャレンジしたいとの思いが募り、思いきって2005年に退職。その後、日本及びオーストラリアの大学院修士コースで国際開発、環境マネジメントについて学びました。大学院時代に調査で訪れたエチオピアでは、森林の過剰伐採により土壌が流出し、農業生産性や生態環境が著しく劣化している現状を目の当たりにしました。途上国の農村が社会的持続性を確保するためには、たとえ時間がかかっても、植林を通じた土壌の回復と水源の確保を成し遂げなければならないと痛感しました。それで医療・教育支援のみならず持続的農業の支援にも注力しているTICOの活動方針に大いに共感した次第です。今はTICOの一員として、ザンビアにて開発フィールドワーカーとしての第一歩を印すことができた喜びを噛みしめています。正直なところ調整員としての実務に関してはほぼ初心者となります。それでも、サラリーマン時代に培った「人をその気にさせて巻き込む力」を生かして、ザンビア事務所の活動に貢献したいと考えています。



藤村健司

黒田晶子

2月からTICOにお世話になっております。カナダの過疎村にある大学に通っていたのですが、TICO事務局での研修中は山川町のゆったりした空気と農家のみなさんの笑顔に、勝手にカナダを感じてしまっていました。

3月からはザンビア事務所に調整員として派遣され、今はエネルギーなザンビア生活に慣れるのに精一杯ですが、日本でTICOを応援して下さっている皆さんに、ザンビアから楽しく、意味のあるニュースをお伝えできるよう、頑張りますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。



唄う★はるさー栄養士 ～井形和枝の国際協力とのかかわり～

沖縄の方言で「うみんちゅ」は「海人」。これは知っている人も多いと思う。では、「はるさー」はどうだろう。「うみんちゅ」と比べると知名度は低いかもしれない。正解は「畑人」。初めて八重山諸島は小浜島に行ったときのこと。もう10年近く前の話になる。泊まった宿のお父さんの本職は農業で宿もつばらお母さん任せ。サトウキビ、パイナップルやゴマ。日々島の未来のために試行錯誤しながら、毎日朝から晩まで畑に出て働く、ばりばりのはるさーおじいだ。お父さんの畑への情熱、島を思う心、どんな失敗をしても「だいじょーぶ、だいじょーぶ」とガハガハ笑ってくれる、明るくて優しい人柄。そんなお父さんが大好きで、宿に泊まったのはほんの数日間だったが、ほとんど毎日、一緒に畑へ行った。照りつける日差しの中、なれない農作業は大変だったが、本当に本当に楽しい時間だった。

TICO代表 吉田修の運営するさくら診療所（徳島県吉野川市）に勤務。TICOザンビアのンゴンベコミュニティスクールの栄養改善教室等に携わった経験を持つ。

その頃からだったと思う。土に根をおろし、南風と共に生き、自分の住む土地を心から愛する。そんな島のお父さんみたいになりたかった。はるさー栄養士を目指そうって思った。今は、収穫やら、野菜の加工品作りやらがもつばらで、まだまだ「なんちゃってはるさー栄養士」であるけれど。



私の職業。栄養士。「食べること」に関わる者として、栄養がどうのこうの、あれを食べろ、これは食べるな、栄養バランスがどうか、カロリーがどうか、そんな話だけをしていたのではどうかと思うわけだ。もちろん食の専門家としてそれらは必要だし、時には細かい数値を持ち出しての話も必要だろう。しかし、実際に口にする食べ物が、食品添加物や農薬まみれ、収穫してからどれだけの時間を経たのか分からないようなもの、何日おいてもかびひとつ生えないもの、そんなものばかりだったら、どうなの？という話である。そもそも、安心して、安全で新鮮なものが提供できないのであれば、栄養どうのこうのなんて話は本末転倒ではないか。そう思うのである。昨今、食の安全が唱えられるようになり、様々な話題がメディアをにぎわした。その結果、結局、流通している食品は、どの会社も偽装しているのではないかと、産地も何も偽っているのではないかと疑心暗鬼になってしまったところも無きにしもあらずではないだろうか。ま、それは過剰すぎる反応だとしても、栄養士として食材に関心を持つことは重要である。農業や、もっと言えば、畜産業や漁業にも、関心を持つべきだと思う。どこどこ産の美味しい何とかとかブランド食材がどうのこうの、というのではない。そんなことはどうでもよく、それよりも、地元で採れる安全で安心、新鮮で美味しい食材、地元の人たちや患者さんの健康に寄与できる食材を提供するにはどうしたらよいか、という観点からである。

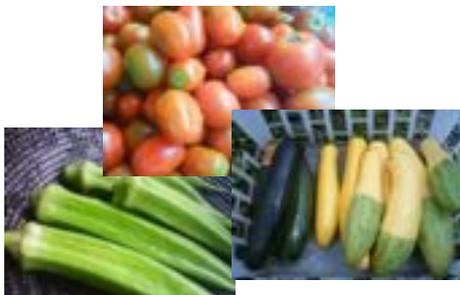


ありがたいことに、私の職場であるさくら診療所には畑があり、無農薬で米や野菜を作っている。まずは、自分たちで安心して安全なものを作ってみよう。そういう思いを持ち実践している院長先生のいる職場に、私もいる。とはいえ、まだまだ「なんちゃってはるさー栄養士」の私。農作物を育てるところは、何もお手伝いができていない。日々、あいた時間があれば、せっせと畑に足を運び、畑仕事にいそしんでいる院長先生の姿を見るたび、頭の下がる思いだ。私もせめてもの思いで、今のところは、収穫と野菜の加工品作りを中心に、自分なりにがんばって試しているつもりだ。畑に出ると、野菜たちが一斉に声を上げる。「今が食べごろよ～！トウがたつ前に、美味しいうちに、はよー収穫してよ～」。大きく育った野菜たち。少しずつ収穫して、厨房の裏で他の栄養士さんたちと一緒に泥を落としてキレイに洗い、厨房へ運ぶ。そしてベテラン調理師さんたちの手で、美味しい料理へと姿を変えるのである。

余談になるが、「ブタがいた教室」という映画がある。妻夫木聡が先生役で主演。最終的には食べますよ、ということで小学6年生のクラスで子豚の飼育を始める話である。次第に子豚に対する愛情が湧いてきた子ども達。食べるのか食べないのか、他の豚なら食べられるのか。食べ物って何？命ってなに？卒業が迫る中、学級会で子どもたちの議論は加熱していく。最終的にどういう結論を子どもたちが出したかはともかく、命をどう教えるか、という教育現場の話だが、栄養士にも是非観て欲しい、そして色々と考えてもらいたい映画だ。



命あるものが食べ物となり私たちの口に入るまでには、多くの人たちの手を経てきている。だから食事の前には「感謝の気持ちで頂きます」なのだ。栄養士として、自分自身がそういった心持ちでいることは当然ながら、他の人にもそういったものを伝えられたらと思う。そういう意味でも、実際に畑に出ることで、命を育て、私たち自身の命へと変えるために、生き物の命をたつて、食べ物とし、食べやすいように加工し、調理するという、流れや多くの人の手が入ることが経験的に感じられ、「感謝の気持ちで頂く」ということが、より強く、よりリアルに感じられるのではないと思う。



さて、ここまで長々と書いてきたが、TICOの機関紙なのに、栄養士の仕事と野菜の話ばかりで、何か国際協力と関係があるのかしら？と思われたかもしれない。直接的ではないが、畑を通じて、間接的に関わっていると私は思っている。実は、収穫した野菜や、多く採れた野菜を加工したものを、診療所の玄関や職員玄関で販売している。その売り上げは全てTICOに寄付される形なのだ。寄付される額は微々たるものかもしれないが、これが今の私なりのTICOとの関わり方。自分の職業のためにやっている畑仕事が、TICOにもちょっとだけ関わられる。私にとっては一石二鳥だ。さくらに就職してから、厨房の調理師さんに教えてもらって、様々な野菜の加工食品を作れるようになった。例年やっているゴーヤの佃煮やズッキーニの芥子漬け、切り干し大根に加え、去年はキュウリのQちゃん風漬物やゆずポン、クルミのローストなども作ってみた。加工食品作りは、自分のためになったのはもちろん、作ったものが少しでも売ればTICOのためにもなる。





TICOでザンビアに行ったり、青年海外協力隊でニジェールに行ったりしていたが、このところは国際協力の現場からは離れている。海外に出たことで改めて、日本の徳島県の上川町の良さ、そして問題点を感じ、「ここでやれること、やらないかんことがよけある」、そう思ったのだ。ただ、国際協力の現場に直接と言う形ではないにしても、自分なりの形で国際協力やTICOとの関わりを持ち続けたいと思っている。**国際協力は決してお金に余裕がある人や、人間ができていない人がするものではない。誰でもできるものだし、その人なりの関わり方をすればよいものだ**と思っている。私にとってはそれが畑を通じてであったということだ。

「愛の反対は憎しみではなく無関心です」。マザーテレサの言葉だ。見てみぬふり、知らぬふりの無関心で何もしなくても、ヒトは生きていけると思う。しかし、無関心でいることは、何よりも悲しくつらいことなのだ、マザーは言う。

まずは様々なことに関心を持つこと。そして、現状に甘んじることなく、行動を起こしてみることである。そうすることで、自分の世界が広がったり、新たなヒトとのつながりができたりもする。私が協力隊での2年間



を過ごしたニジェールで、2010年2月19日、軍事クーデターが起きた。日本のメディアでは大きく取り扱われることはなかったし、多くの日本人は知らないことだと思ふ。しかし、関心を持っていれば、情報は入ってくる

世の中である。私の場合も、このニュースは、協力隊を通じてできたヒトとのつながりの中から得られた情報だった。もちろん、ニジェールのニュースを知ったからといって、何が出来るわけでもない。それでも、同じ地球上で現実起こっていることなのだから、無関心でいてはいけぬ、そう思う。ちなみに、ニジェールのクーデターは銃撃戦で数名の死者が出たようだったが、首都は落ち着いているようである。とはいえ、国際社会からの批判は免れられないだろうし、経済的な制裁が加えられれば、これからニジェールはどうなっていくのだろうか…と思う。

さて、繰り返しになるが、まずは様々なことに関心を持ち、自分なりにできることを少しずつでも実際の行動に移し、実践していくことだ。それが国際協力につながっていくこともある。私の場合は、栄養士としてどうあるべきか考え行動したことが、ちよびつとでも国際協力やTICOと関われる形になり、一石二鳥なのは、前述の通り。もひとついえば、私は沖縄の唄が好きで好きで仕方がない。これも小浜のお父さんの弾く唄三線を聞いたことが強く影響している。大好きな沖縄の唄で、音楽で国際協力、どっちかといえば国際交流かもしれないが、そういったことに関われないらなあとも思う。やりたいこと、やってみたいことは本当に尽きない。

長靴はいて。畑用の服を着て。自転車にカゴを乗せて。今日も国道192号線沿いを、畑に向かって走る。目指すは、はるさー栄養士。いや、もうひとつ付け加えて、唄う★はるさー栄養士だ！



ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方

高松聖ヤコブ協会婦人会、カトリック聖園幼稚園、株式会社デンソー、青木君夫、橋本伸子、みずほメディカル、藤田文彦、加藤かえで、福土庸二、笹井、太陽と緑の会福祉事業団 杉浦良、大多和通男、桑原ヒサエ、関谷晴孝、石橋万理、西村歩、株式会社フジタプランニング、山口県立大学 minori-ty、山川、NPO法人ネットワーク地球村、吉田修、瀬戸口千佳、武澤洋子、TICOサポートクラブ、原田栄枝、藤田裕介、寺口美香、リサイクルウェブ、松田俊太郎、山元香代子、わらびの会、匿名1名

新たに入会された方

森里美、石田瞳、広島大樹、富峯康代、玉腰大悟、杉山未紗、成俊浩、森田、成山美々、太田真

見子、古川由貴、山田智康、阿部正通、田中準一、和田快、石川良司、黒田晶子、藤村健司、下地美歩子、リサイクルウェブ、匿名1名

会員を更新された方

饗場和彦、石橋万理、岩田祥三、小野裕次、須藤榮子、笹井美由紀、関野、大多和通夫、池北國子、ダスキン川島 池北靖、森山庄八、井内誉範・晴子、北島コーポレーション代表取締役 北島大介、金納千晴、砂田節子、坂東正章、松田千文、大西和賀、長野茂夫、白石勝美・久代、本庄敬、古屋絢乃、渡辺敬太、太陽と緑の会福祉事業団 杉浦良、寺口カミコ、三木野博之、匿名1名

●2009年12月19日～2010年3月15日分

●順不同、敬称略

TICOへのご寄付の方法

郵便振替 — 01640-6-37649 (加入者名) TICO

銀行振込 — 四国銀行 山川支店 (店番号344)

普通 0199692

特定非営利活動法人TICO

代表理事 吉田修

カナ入力の場合は、トクヒ) テイコ

募金箱 — さくら診療所 (徳島県吉野川市) に常設しています。

インターネット — TICOウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000

正会員 ¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。

TICOニュースレター Face to Face 第21号

2010年4月発行 発行人：吉田 修

編集：庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4

電話/ファクス：0883-42-2271

メール：info@tico.or.jp / ウェブサイト：www.tico.or.jp